

株式会社就労センター

バックオフィスにおける定型業務は属人化しており、業務の見直しが必要と感じている業務を見直し、自動化することでコア業務に費やす時間を捻出したいと考えている

株式会社就労センター 実証結果【1/4】

企業概要

- 企業名
株式会社就労センター（愛知県半田市）
- 社長
長井 映樹
- 概要
 - 知多、西三河、名古屋エリア等、愛知県内11事業所を運営
 - 障がいがあっても地域で継続して暮らしていけるための支援の実現を理念としている

デジタル化推進の背景

- 管理部職員が毎月、個別のシステムを利用して定型的な作業を行っており、業務改善をしたい
- 自動化することで、属人的な運用も解消できると考えている

「あったらいいな！」を考える障がい福祉事業所です。

 就労センター

アタラシイ福祉をつくる



導入ツール



- ロボットにより、ルーチン業務を自動化するRPAソフトである「UiPath」を使用
- 各システムを連携し、一気通貫で作業の自動化を行う

※「UiPath」はUiPath株式会社の登録商標です

RPAを使用して定型業務を実施することで、属人化の解消を目指した

株式会社就労センター 実証結果【2/4】

モデル実証を通じて解決を目指した課題

定型業務の削減

- 福利厚生としての職員誕生日施策に毎月3時間程度の定型作業が発生し、コアな業務に集中して取り組むことができない

属人化した業務の見直し

- 作業内容が複雑で、簡単に引き継ぐことができない
- 目で見たり、作業者の判断が伴う処理もあり、言語化して伝えることが難しい

課題解決に向けた取組内容

プログラムによる業務の自動化

- マニュアルに沿って担当者が実施していた作業をRPAのシナリオとして作成することで、ボタン1つで処理が完結できることを目指した

業務の処理方法の見直し

- 作業者が実行している処理をRPAのシナリオとして実行できるか、システムのデータや処理の見直しをおこなった

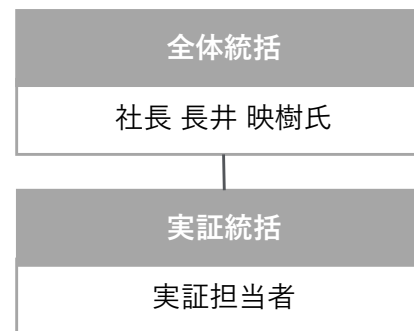
RPAの知見を獲得することで、業務のデジタル化への引き出しを増やすことができた

株式会社就労センター 実証結果【3/4】

実証時に感じた壁および克服のためのアクション

- UiPathをすぐに導入できると思っていたが、実際は、UiPathを動かす環境（PC）の設定等に時間を要した
- 普段使用しているマニュアルに沿って、シナリオを作成したが、マニュアルには、作業者が目で見て考えて実行する作業が含まれていたため、マニュアル通りに作成するとエラーになってしまう箇所があった。その解決策として、システムに登録されている情報を整理する必要があった
- 事前準備等がスムーズに行えず、課題解決に向けた検証に至らず終わってしまった

実証体制



- 社長 長井氏が統括し、実務を担当されている担当者がPCの設定等を担当

取組の成果

UiPathでの作業の流れ



RPAの業務効率化に期待できたが、効果は確認できなかった

- 実証期間内に完成させることができなかったため、実際にRPAの動きを見て、効果検証までは進めることができなかった
- RPAがどのようなものを学ぶことができ、今後、RPAが適した業務が出てきた際にRPAを選択するという、自分たちの新たな引き出しを増やすことができた

福祉業界として、デジタル技術を導入して業務効率化を図ることは重要と考えています

株式会社就労センター 実証結果【4/4】

今後の課題・目標

(デジタル化を推進する他企業への) 示唆

福祉業界としての課題

- 福祉業界は属人的な業務が多いこともあり、IT・デジタル人材の雇用が難しい現状がある。しかし、事務作業の負担を減らす業務効率化は喫緊の課題であるため、デジタル化ができるところは積極的に取り入れたいと考えている

会社内でデジタル化を進める人材の必要性

- デジタル化を進めるにあたり、社内の人材で開発する場合であっても、社外に委託して開発する場合であっても、そのどちらにしても、内容を理解して進めていける人材が必要だと感じた

- デジタル化は、躊躇せず最初の一步を踏み出すことが重要と考えています
- 実際に踏み出したことで、業務の細分化を行うことができ、細分化したことで課題として見えてくるものもあります。デジタル化は小さなトライ＆エラーを繰り返し、ブラッシュアップを図っていくことで、業務が効率化されていくと思います
- デジタル化が進んでいない業界にとっては、モデル実証事業のような伴走型のデジタル化推進事業は有用であると考えます